

多文化共生教育支援事業報告書

1 委託業務名・概要

(1)業務名 保見子どもの教育まるっとネット

(2)概要（事業の要約・事業の目的など）

- ・外国籍の子どもたちの教育環境について実態把握をする。また、公立学校と多様な教育機関との連携や情報交換が可能なネットワーク形成を目指す。
- ・定住が長期化する中、外国籍の子どもたちに必要な支援のあり方を検討する。

2 実施事業について

(1)実施時期 平成17年7月1日（金）～平成18年2月28日（火）

- ・訪問聞き取り調査 平成17年7月13日（水）～平成18年2月14日（火）
- ・保見中学校見学会 平成17年9月28日（水）
- ・意見交換会 平成17年9月28日（水）
- ・ワークショップ「子どもたちの明日を拓く～ブラジル人教育者の集い～」
平成17年10月17日（月）
- ・健康診断会 平成17年11月20日（日）
- ・講演会 「元気にかしこくすすくと」（対象：大人）
平成17年12月4日（日）
- ・講演会 「元気にかしこくすすくと」（対象：子ども）
平成17年12月16日（金）
- ・東保見小学校見学会 平成18年1月20日（金）
- ・意見交換会 平成18年1月27日（金）

(2)実施地域 豊田市保見団地及びその周辺

(3)事業の具体的内容

- ・外国籍の子どもたちをとりまく教育・託児・教育支援機関（ブラジル人学校・ポルトガル語塾・アパートでの託児・NPO）の訪問聞き取り調査を行い、各機関の実態（場所・受け入れ人数・子どもたちの様子・教育内容など）を把握する。
- ・関係者による公立学校見学会と意見交換会等を実施する。

- ・(財)豊田市国際交流協会ボランティアグループ医療支援グループと共に子どもを対象とした健康相談会を行う。さらに健康相談会の結果を受けて講演会を開催する。

《まるっとネット参加団体》

・ブラジル人学校

エスコラ・アレグリア・デ・サベール (EAS) 豊田校

エスコラ・ネクター

エスコラ・ピンタンド・セッチ

・託児施設 (ババはポルトガル語でベビーシッターの意味)

メウ ジャルジン

ババ クリスティーナ

ベビーシッター アリッセ

ババ ネウザ

ババ エリアニ

ババ ホザ

ババ チヨコ

・ポルトガル語塾

アルカデ ノエ

エルマラ教室

・NPO法人

子どもの国 (学習支援事業「ゆめの木」教室)

トルシーダ (日本語教室 CSN / Curso Sol Nascente)

《学校見学会・意見交換会への協力》

豊田市立保見中学校

豊田市立東保見小学校

豊田市立西保見小学校

豊田市役所自治振興課

財団法人豊田市国際交流協会 (T I A)

《健康診断会・講演会への協力》

(財)豊田市国際交流協会ボランティアグループ・外国人医療支援グループ

3 実施結果（実施の効果等）

（1）訪問聞き取り調査

団地内の託児施設、ポルトガル語塾、近辺のブラジル人学校を訪問し聞き取り調査を行った。今回の訪問調査で分かったことは以下のことである。

<託児施設>

- ・団地内には、いくつかの託児施設がある。看板を出してたくさんの子どもを集めているところもあれば、知り合いの子どもを一時的に預かっている場所もある。全て無認可保育である。子どもの預かり時間は朝、6時台から夜は9時ごろまでである。
- ・子どもは朝保護者が出勤前に連れて来る。仕事が終わりに帰宅するときに迎えにくる。保護者の勤務時間に合わせ定時以降を残業とし、延長料金を設定しているところもあった。
- ・子ども、特に幼児は一日3回の食事をほとんど託児施設で食べることが多い。しかし、保健所に届出ている託児施設は0であった。
- ・託児者側は子どもの保護者に対して、子育てよりも仕事を優先しているという不満があるが、保護者へ意見をすることで仕事がなくなることを恐れ、子育てについて何も助言ができない状態である。
- ・そのことで、保護者側の希望を全て受け入れる託児を強いられ、託児側と預ける側の良好な関係が見られない。
- ・病気になったときの託児も行われているが、看護師等の医療関係者からのアドバイスを受けていない。子どもの持病等についても詳しく聞いていない託児施設もある。
- ・災害時対応について、託児者自身が何の情報も持っていない。保護者との話し合いはなされていない。
- ・年齢の近い子どもを預かっているので、自分の子どもを就学させずに、遊び相手としているケースもあった。

<ポルトガル語塾>

日本の学校へ行っている子どもたちのポルトガル語保持のため、放課後から保護者の帰宅までの時間、指導をしている。3箇所では話を聞いた。

- ・ポルトガル語の読み書きが指導の中心だが、学校の宿題をみる場合もある。
- ・学期始めには、学校との連携を強化し、急病のとき保護者に代わり学校へ迎えに行く等、学校と保護者をつなぐことにも配慮している塾もあった。
- ・どの指導者も自身の子どもを公立学校に通わせており、災害時の対応については学

校から情報を得ていた。また、災害時の預かりについて保護者と話し合いができていた。

- ・保護者が迎えにきて帰宅する子どもがほとんどだが、午後 6 時～7 時ごろには全員迎えがくる。(両親が来られない場合は親族が迎えにくる)

< ブラジル人学校 >

ブラジルのカリキュラムに添ってポルトガル語で教育が行われている学校を 3 校訪問した。内 2 校は、ブラジル教育省の認可を受けている。

- ・どの学校も送迎バスを使い、豊田市のみならず近隣の市町から生徒を集めている。
- ・初等教育だけではなく、幼児教育も行われている。
- ・2 部制だが、保護者の希望があれば、一日預かるようにしている。
- ・生徒の転出入については保護者の責任で行われ、学校の関与はない。
- ・卒業後の進路は、日本社会への繋がりがなく困難である。

< N P O >

団地内には 4 つの N P O 団体がある。その内、公立学校児童・生徒を対象に学習支援を行っている N P O の話を聞いた。

- ・学校や保護者との連絡が積極的にとられている。
- ・子どもたちは学校から直接教室に来る。帰宅は 6 時で、保護者が迎えにくるかスタッフが自宅まで送り届けている。
- ・学習内容は学校の宿題が中心である。

(2) 学校見学会と意見交換会

託児者や塾指導者、ブラジル人学校と公立学校のネットワーク作りの契機として保見中学校と東保見小学校の学校見学会を実施し、それぞれ意見交換会を行った。

< 保見中学校見学会と意見交換会 >

- ・日本の学校は初めてという人も多く、ブラジル人教師が日本の学校を知る機会になった。
- ・保見中学校見学会は、授業参観後、給食を食べながら懇談したが、参観後の懇談では、時間が短く、学校の紹介と自己紹介のレベルで終了した。
- ・国際学級と取り出し授業の参観であったため、参加者からは普通学級でのブラジル人の生徒の様子が見たい、との意見があった。

<ワークショップ 「子どもたちの明日を拓く～ブラジル人教育者の集い～」 >

ブラジル人学校の先生、ポルトガル語塾の指導者、託児者と、NPO関係者が参加。保見中学校見学の感想を聞いた後、それぞれが関わっている、子どもたちの様子や日本に住むブラジル人の子どもたちの教育環境について、意見交換がされた。

- ・それぞれが関わっている子どもたちの様子について情報交換がされた。
- ・ブラジル人教師から、中学校の勉強のレベルと、外国籍生徒の日本語能力のへだたりについて懸念の声があった。ポルトガル語の能力の問題についても多くの意見が出された。
- ・教育に対する保護者の姿勢や、日本に住むブラジル人の子どもたちの将来について率直な声が聞かれた。

<健康相談会>

ブラジル人学校へ通う児童生徒と、不就学の子どもたちに、健康診断の機会はない。財団法人豊田市国際交流協会(TIA)ボランティアグループ外国人医療支援グループは過去4年間ブラジル人学校に通う子どもたちを対象に、健康相談会を実施してきた。今年度、当法人も協力し健康相談会を実施した。ブラジル人学校の児童・生徒、不就学の子ども、就労青少年など48人が受診した。

- ・打ち合わせの段階から協働することで、実際の問題に即した健康相談会になるよう話し合いが持てた。その結果、以前は医療的視点から「問診表」という形で検診前の申し込みを行っていたが、今回はカウンセリングに重点をおけるよう「アンケート用紙」とし、設問内容を見直した。
- ・ブラジル人学校の先生方に協力を依頼し、子どもたちの参加を促していただいた結果、昨年を上回る参加者があった。
- ・診断結果について、ポルトガル語訳を付けそれぞれの学校に連絡した。
- ・生活習慣や食生活に問題があると思われる糖尿病予備軍と肥満傾向の子どもの存在が明らかになった。これを受けて専門家（看護師）による講演会を2回実施した。

<一回目講演会>

食事と健康について、意識啓発を目的に、主に託児関係者とCSNの保護者を対象に、専門家（看護師）の食と体に関する講演を実施した。講演後は個別健康相談の場となり、託児者のストレスフルな生活が垣間見られた。

<二回目講演会>

子どもたちが、自分自身で「食と健康」について考えるきっかけ作りを願い、実施した。ブラジル人学校ネクターの子どもたちと CSN の子どもを対象に、専門家(看護師)が子ども向けに分かりやすく話をした。

- ・最初に当日の朝食を絵に書かせたが、食べていない子が多かった。
- ・話の途中から、持参していたジュースをこっそり隠す子どもが現れたりして、初めて食と健康の話を聞く子どもたちの反応は興味深いものがあった。

<東保見小学校見学会と意見交換会 >

保見中学校見学の経験から、2回目は学校見学会と意見交換会を二日間に分けて実施した。東保見小学校の学校公開日に授業参観をし、普通学級の授業も取り出し授業も、両方の授業を参観することができた。その後、日を改めて意見交換会を実施した。

- ・2回目の意見交換会は、より具体的な話ができるように、小学校の校長先生、小学校に通う子どもに関わる塾指導者、ブラジル人学校の先生、NPOの指導者で実施した。行政からも参加を得られ、様々な立場からブラジル人子弟の教育について意見が出された。
- ・ポルトガル語を優先させるのか、日本語のほうが大切なのか、といったことや、言語能力と学習能力の伸長の関係など、普段から先生方が考えていることについて、話し合いがされた。
- ・子どもたちのアイデンティティーについて、様々な意見が出され、ブラジル人学校の先生方も、悩みながら努力していることがうかがわれた。
- ・小学校の先生方とブラジル人教育との対話は初めてのことで、双方から意見交換会の継続を希望する声があった。具体的にはブラジル人学校の先生から、教員の交流ができたらの声があった。

4 事業の特質(工夫した点など)

(1)訪問聞き取り調査

- ・既存のネットワークや人脈を活用する。
- ・事業趣旨を十分に説明する。
- ・豊田市の「認可外保育施設運営状況報告書」を参考にバリエーションシートを作成した。
- ・何回も訪問する。

- ・他団体や学校と繋がりをつくるための共通の関心や問題点を探る。
- ・託児施設の訪問には、専門家（看護師）に同行を依頼した。

（２）学校見学会と意見交換会とワークショップ

- ・前日には必ず出席確認をとる。
- ・まずはお互いに顔見知りになることが大切だが、ネットワーク形成のためには、それぞれの会のテーマについてポイントを絞ることも必要である。
- ・託児の仕事をしている人に出席してもらうためには「託児」や「送迎」が必要である。

（３）相談会と講演会

<健康相談会>

- ・「まるっとネット」のブラジル人学校の先生方にも参加していただき、当日の連絡と付き添いをお願いした。
- ・協働でおこなったことで役割分担ができた。医療の専門家が詳しく話を聞き、受診した子どもや保護者の生活について、それぞれに具体的なアドバイスがあった。
- ・専門家による相談を重視したことで、生活習慣上の問題が具体的に分かった。

<講演会>

- ・視覚的に訴えるよう、演者には白衣を着ていただいた。炭酸飲料に入っている砂糖や、インスタントラーメンの塩の量などは実物を使い分かりやすく示した。
- ・日本の食材に馴染みのない人も多い。食材の様子も異なるので、体に良い様々な食材を紹介すると共に、簡単な調理を行い、試食の機会を設けた。うなぎ、こんにゃく、ほうれん草といった日本的な食べ物を口にするのは初めてという人もいた「意外においしい」という声が多かった。

5 今後の課題

- ・今年度は、ネットワークを立ち上げるまでの、コーディネートの部分の比重が多かったが、今後、このネットワークを使い具体的な働きかけを進め、本来の意味でのネットワークを形成していく必要がある。すでに、来年度ブラジル人学校と公立小学校の交流について、調整が始まっている。また、先生同士の交流を期待する声も上がっている。さらには地元の大学生と、ブラジル人学校の交流も始まった。ネットワークの活用を通して、外国籍の子どもたちの、教育全体の問題の討議が望まれる。ネットワーク継続のためにも今後、資金の調達が必要となる。
- ・今年度の意見交換会では、学校におけるブラジル人児童・生徒の転出入の問題にまで具体的に踏みこむことはできなかった。しかし、訪問調査をする中で、中学校を

やめた生徒が、ブラジル人学校に転入したがほどなく退学し、不就学になっているケースに出合った。また、トルシーダの日本語教室CSNは、不就学とブラジル人学校の子どもたちを対象とした日本語教室だが、この2～3年どこかの学校をやめた子どもの受け入れが大勢である。今後もブラジル人学校と、公立学校の行き来は続くものと思われ、不就学の調査のためには、ブラジル人学校の協力が不可欠である。

- ・アパートで行われている託児は、総じていい環境とは言えず、託児者と保護者の関係が良好ではないケースや、託児者自身の子どもが不就学であるところもあった。今回は保見地区に限定して訪問したが、保見地区以外の場所でも託児は行われており、専門家（看護師・保健師・保育士）の定期的な訪問が必要だと思われる。
- ・意見交換会においても訪問調査でも、通訳の確保が問題になった。ポルトガル語の能力のみならず、保見地区という狭いエリア、かつ外国籍住民集住地域での通訳確保の難しさがあった。

6 その他参考事項

- ・トルシーダでは、「まるっとネット」のネットワークを活用し、豊田市が実施する「わくわく事業」（地域資源（人、歴史、文化等）を活用し、地域課題の解決や地域の活性化に取り組む団体を支援する新しい発想の地域活動支援制度）の委託事業「ようこそ近所先生」の実施に繋げることができた。
- ・中京大学の学生が、夏休み宿題ボランティアとしてCSNに参加した。
- ・日本語教室CSNの子どもたちが、中京大学の文化祭へ出かけた。
- ・わくわく事業「ようこそ近所先生」では中京大学の学生を講師に、ブラジル人の子どもたちがクラフト教室を楽しんだ。

【マスコミ等の取材】

平成 17 年 9 月 28 日(水)「意見交換会」NHK 東海地方ニュースで放送

平成 18 年 1 月 27 日(金)「意見交換会」NHK 東海地方ニュースで放送